

～元小学校校長としての視点から～

Q1. ばんけい幼稚園の教育についてどう思われますか？

「根を育てる」のに最適な幼稚園です。

生きる力の育成が叫ばれているこの世の中で、これからの激動の社会を乗り越えていく知恵の素地と心をこのばんけい幼稚園で培うことができると考えています。

その理由は、「原体験」ができるからです。ばんけい幼稚園での保育内容が、加工されていない「素」のものが多いです。これがこの時期の子たちに大変有効なのです。

Q2. ばんけい幼稚園出身の子どもたちはどのような特徴、育ちですか？

これは、盤溪小、ばんけい幼稚園出身者の様子をリサーチした結果です。

先日の新入園児説明会、就学説明会でお話した内容です。

Q: ばんけい幼稚園の子どもって・・・？

- ・山菜や自然のことに、こだわりをもつ
- ・体力があり、やり続けようとする
- ・年齢を問わず、交流ができる
- ・活動することで、ものごとを知ろうとする
- ・やろうかやるまいか迷ったら、やるほうを選ぶ

要するに、物事へ徹底的にかかわろう！ 行動しよう！ とする大人になると考えられます。これは、将来に渡ってずっと続きます！

Q3. 幼児期に育てるべきこと、培うべきことは何でしょうか？

- ・原体験：加工されていない「素」のものを体験することで「知識が知恵になっていくこと」を学ぶ。特に、五感の体験を！

砂・土を触る 葉・空気の匂い 硬軟

火は熱い 叩き染め 木に登る 坂を駆ける 泳ぐ など

- ・失敗体験：その年齢にあった失敗を！

そして、その「責任の取り方」を学ぶこと *後段で説明

- ・昆虫など動物に触れる体験：動くものを追いかけたり触れるように！

「右に行け！」と言っても自分の自由にならないことで、その動物に合わせたり、気持ちになることが「謙虚や受容」の心が育つ

- ・異年齢集団：年上と年下との交流を！

面倒をみる、みられる関係から「仲間意識」が育つ。

- ・本物体験：本物のもつ素晴らしさ、凄さを感じ取る！

子どものうちに質的、物的によりよいものに触れることで、五感が養われる。(三浦雄一郎さんより伝授)

～小学校入学に備えて～

Q1. 入学前に文字を書けたほうが良いですか？

Q2. ひらがなも読めるようにしておいた方が良いですか？

「自分の名前を読む・書けるようにしておくとういでしょう」と言われています。しかし、ばんけい幼稚園の子どもたちであれば、いろいろな方面の情報を得てきますので、自然に「スポンジ」のように、ぐいぐい覚えようとすると思います。興味をもち始めれば、一緒にひらがなを学ぶとういと思います。

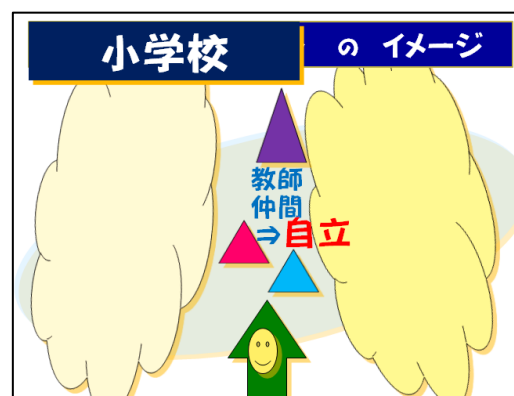
Q3. 保護者の心構えについて

＜幼稚園、学校への保護者の構え＞

幼稚園の教育とは、子どもが乗り越えられる内容（▲印）を園で設定して園の環境を生かしながら、進めていくものです。そこでは、「遊び」を中心に自立という目標のもと、全身を使って遊びながら子どもは成長していきます。

ですから、保護者は、設定された内容（▲印）を取り除かないことが賢明です、子どもにとってその時期の乗り越えられる事柄（▲印）なのですから。

同じように小学校でもレベルが上がった内容（大きな▲印）が設定され、それを超えていくことになります。



上記のことでお分かりのように、保護者の皆さんは、この▲印を取り除かないように、子どもを進ませて（成長させて）ほしいのです。

そのために、保護者は、心配だから何でも子どもの先回りをしてしまい、チャレンジするチャンスや失敗から学ぶチャンスを奪ってしまったりすると、親に指示されないと何もできなくなす子どもになりがちです。子どもの個性やペースを大事にして、失敗体験の仕方を育てていきましょう。

<転ばぬ先の杖>

- × ミスをしたら「だめ！気をつけなさい！」と叱る
- × 困らないように先回りしてアドバイスをする
- × 仲間はずれやけんかは、親がなんとかしてやめさせる など

この場合はどうしますか？

Q：お子さんが何度やっても服のボタンをかけられない時、どうしますか？

- A：① できないのだから、すぐ親が手助けをする
② できるまで、投げ出すまで手助けせず、親は待つ

正解は、②をお勧めします。

ボタンかけは、成長過程の中で以後も自分でしなければならないことであり、自分からやってみようとしたのであれば、親は手を出さず見守ることですね。成功すれば、褒めてあげます。しかし、ボタンをかけられない場合、「ギブアップ」まで待ちましょう。その後、一緒にボタンをかける練習、工夫などをしてできるようになると最高ですね！ 待つ努力が必須ですね！

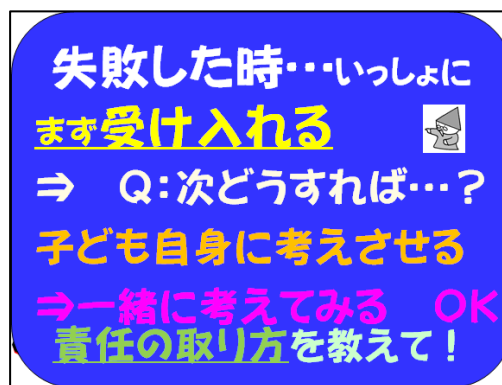
もしも、子どもにとって全く乗り越えられないようなことや内容にチャレンジしているのであればストップですね。

<失敗と責任の取らせ方>

失敗した時は、まず、一緒に受け入れる
保護者が「次どうすれば…？」と問うて
その答えを子ども自身に考えさせる。

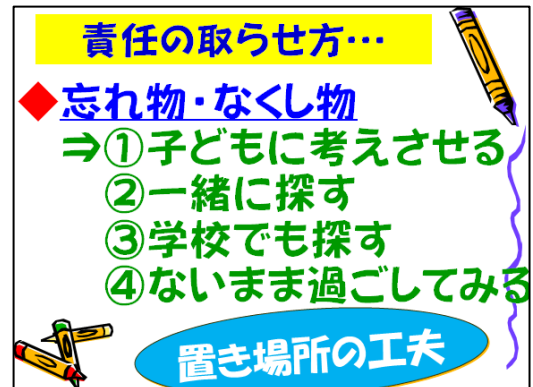
難しければ「責任の取り方」を一緒に
具体的に考えるようにする。

上記の▲印にぶつかったということです。



たとえば、「明日、学校で分度器を使う予定だ！ あっ！ 分度器がない！」

- ① 以前に使った時と場所を考えさせ、探させる。それでもない！
- ② 「しょうがないわねえ～」と言いながら一緒に探す。「お母さんごめん！」
- ③ 「きっと学校にあると思う！」次の日、学校で探させる。担任の先生に一報。（親子の現状を伝達しておく）
- ④ それでもない場合、ないまま過ごしてみる。友達に借りるなど苦労するはず！



「責任の取り方」を家でも学校でも重々感じたと思います。その後、今後どうすればいいのか、一緒に考えて、置き場所の工夫を取り入れる。たとえば、「いつもランドセルの一番前のチャックの中に入れてみる」絶対に忘れないようなところを決めて、常時置いておくようにする。などの工夫をすることで責任の取り方と改善策を学んでいくものです。

上記の▲印を取り除いてしまうと「責任の取り方」を学ばないまま成長してしまうのです。

おためしあれ！